【主催】多摩めぐりの会

第 55 回 多摩めぐり

多摩を深める講演会

武蔵野植物の移り変わり

樹木医・元日本樹木医会会長　椎名　豊勝さん

2025
8/1(金)

講師：椎名豊勝さん

今夏 8 月 1 日、武蔵野プレイス(JR中央線武蔵境駅南口)で「武蔵野植物の移り変わり」と題して、樹木医で日本樹木医会東京都支部理事、同樹木医会元会長の椎名豊勝さんを迎えて講演会を開きます。

私たちは多摩・武蔵野地域の風景に慣れ親しんでいますが、雑木林や畑が宅地造成されるなど日々変化をし続けています。そんな武蔵野の自然風景をつぶさに見ている椎名豊勝さんは、こんな風にとらえています。

多摩地域の中核をなす武蔵野台地は中世には「萱の原(かやのはら)」と呼ばれ、京の都にもその植生イメージが定着していました。徳川家康の江戸入りにより武蔵野は大きな変換点を迎えることになりました。その後玉川上水の開削による水利が進展したからです。「新田開発の植物風景」と「小金井桜」の存在で大きく変わりました。

明治時代になると、外国文学の影響を受けた国木田独歩は「武蔵野雑木林の美」を歌い上げました。さらに時代は下り、国際的にも生物多様性が叫ばれる現在、武蔵野の植物はどのように変遷していくべきでしょうか？

そんな視点で私たちの周囲や足元を見つめ直すきっかけの一助にするために武蔵野の植物景観の移り変わりを絵画や写真・図表を使いながら興味深く解説していただきます。

太古の時代には鬱蒼たる常緑樹林が覆っていた

太古の時代の常緑樹林内部

中世武蔵野は萱の原

ホタルカズラ

ヤマブキソウ

ギンリョウソウ

ヤマユリ

武蔵野雑木林は野草の宝庫で生物多様性の証

国木田独歩が愛した雑木林は新田開発時代の置き土産

冬の雑木林は日光が林床まで届き生物多様性に貢献

武蔵野新田の屋敷林のケヤキは街道並木

◆講師プロフィール◆

しいな　とよかつ　　昭和 19 年(1944)、品川区育ち。東京農大造園科卒業。小平市に住んで 50 年。
昭和 43 年(1968)東京都に入都。18 年後、大田区公園課長をはじめ、国際花と緑の博覧会協会企画調査課長として会場企画・造成・管理に携わる。
平成 2 年(1990)恩賜上野動物公園工事課長としてゴリラ、トラが棲む森を造成、葛西臨海水族園を立ち上げた。
平成 10 年(1998)東京都都市計画局公園緑地計画課長。東京都景観条例を作成。
その後も公園や緑化事業に携わり、国営昭和記念公園を運営管理する財団法人公園緑地管理財団昭和管理センター長などを歴任。昭島や小平、小金井、西東京市、新宿区の緑化審議委員を務めている。生活周辺の植物に焦点を当てて執筆している「園芸ゼミ」を読売新聞多摩版に連載中。昭和記念公園自然観察ツアーを毎週火曜日実施中。

＊日　　時　2025 年 8 月 1 日(金)午後 2 時（開場は午後 1 時半、終了は午後 4 時を予定）
＊会　　場　武蔵野プレイス　4 階　フォーラム　ＪＲ中央線武蔵境駅南口徒歩 1 分
（武蔵野市境南町 2-3-18、裏面に略図）
＊費　　用　参加費 1,200 円
＊募集人員　先着 50 名
＊持ち物　　筆記用具・飲み物など
＊申込方法　氏名・住所・電話番号を明記し、Ｅメールで「多摩めぐりの会」事務局へ
＊申込と問い合わせ　「多摩めぐりの会」事務局Ｅメールアドレス⇒　tama.meguri@gmail.com
＊当日の連絡先　　090-7286-2124（味藤・みとう）

申込締切　7 月 25 日(金)

予告　次回は、9 月 9 日（火）に、第 56 回多摩めぐり「キッコーゴ醤油と東京シャモ料理（あきる野市）」を予定

■講演会会場の地図

武蔵境駅
（南口）
境南ふれあい
広場公園
入口
P
天文台通り
観音院
駐輪場
境南通り
入口
ブックポスト
イトーヨーカドー
武蔵境店 西館
早稲田アカデミー武蔵境校
武蔵野プレイス
武蔵境駅南
第2自転車駐車場
三井住友銀行
武蔵境支店
かえで通り
N